

## オンライン版楠田實資料について

メタデータ	言語: jpn 出版者: 明治大学図書館 公開日: 2020-05-27 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 山内, 健治 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10291/20828">http://hdl.handle.net/10291/20828</a>

## オンライン版楠田實資料について

山内 健治\*

本資料は、佐藤栄作政権（在任期間：1964～1972）を支えた首席秘書官である楠田實が残した未公開官邸資料であり、事実上の「佐藤栄作文書」と言ってよいものである。

楠田實（1924～2003）は台湾に生まれ（数え三歳で鹿児島に引き揚げ）、陸軍少年戦車兵学校を経て陸軍に入隊、軍曹として終戦を迎える。中国で捕虜生活を送り、復員後早稲田大学に入学。1952年に卒業後産経新聞社に入社、政治部記者となる。

このジャーナリスト時代に楠田は佐藤派の担当となり、1963年から佐藤政権の実現を目指すグループ「Sオペレーション」（Sは佐藤のS、通称「Sオペ」）を組織。愛知揆一をキャップとして、ジャーナリストや若手官僚を擁したこの組織は、「明日へのたたかい」として知られる佐藤の政権構想を生み、1964年11月の政権成立後も数々の重要な献策を行った。

この間楠田は1967年に新聞社を退職し、5年4ヶ月にわたって佐藤の首席秘書官を務めた。

佐藤は手元に何も残さなかったと言われているが、楠田は対照的に膨大な資料を残していた。米国の歴代大統領記念図書館のように、歴代政権の資料がまとまった形で整理・公開されていない日本では、本資料は極め

---

\*やまうち・けんじ／明治大学 政治経済学部教授

て貴重な存在であり、唯一無二と云っても過言ではない。

これらの資料は、2003年の楠田逝去後、楠田が国際交流基金の役員を兼職中に知遇を得た和田純氏（神田外語大学教授）が譲渡を受け、整理に当たってきた。そしてその成果がこのオンラインデータベースなのである。以上詳細については解題を参照されたい。

原資料はある程度テーマに沿った簿冊、ファイルとしてまとめられたものから、単独資料、日誌、日記、手帳、メモ類までであるが、これらの構造を崩すことなく収録し、和田氏による詳細な件名目録が付されている。データベースにはこの件名目録が反映されており、利用者はフリーワードで資料を探すことができる。

資料内容は国会での想定問答集や演説の草稿やメモ、外務省や防衛庁など省庁資料、楠田の執務メモや日記、知識人へのヒアリング記録など多岐にわたる。

外交から内政まで佐藤栄作政権下で行われた幾多の重要な政策の決定過程を知ることができる資料であるが、外交関係で言えば、佐藤政権の最も重要な業績のひとつである「沖縄返還」が挙げられる。本資料によって、「沖縄返還」という政策課題の設定から米国との交渉過程、そして返還までを原資料から緻密に追うことが可能である。その他、日中関係やベトナム戦争への対応、「非核三原則」など多数の重要なテーマを網羅している。

内政面での資料も充実している。国会演説、国会答弁などで推敲を重ねる各過程の膨大なメモや草稿、さらに佐藤総理が最終的に使用した手元原本までを収録しており、当時の政権の国会対策の姿を生々しく伝える。さらに佐藤政権のメディア対策や公害問題への対応などの資料も収録しており、現代につながる諸問題への政策の源流を知ることができる。

また、本資料の大きな特徴として、「未定稿」と書かれた政策検討資料が挙げられる。未定ゆえに重要度が低いと認識され、残ることの少ない史料であるが、政策の合意形成過程を下流から追うことのできる極めて貴重な史料である。

いずれも一級の資料であり、従来資料的制約のあった戦後政治史研究は本資料の登場によって大きく前進することであろう。2015年に放映されたNHKスペシャル「総理秘書官が見た沖縄返還～発掘資料が語る内幕～」

オンライン版楠田實資料について

でも番組の中心として取り上げられており、その存在と重要性は広く認知されていたが、学術資料として、研究者が利用できる形での公開が待たれていたものである。村井良太氏による『佐藤栄作：戦後日本の政治指導者』（中公新書、2019年）など、本資料を駆使した著作が発表されはじめてところであり、今後のさらなる展開を期待させる。

オンライン版

# 楠田實資料

(佐藤栄作官邸文書)

編集：和田純 神田外語大学教授



佐藤首相と楠田首相秘書官  
(於官邸玄関)